

3635 (2)

414
A 4251



大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

世之開化ニ趨ク駸々乎トシテ歌ム可ラサルヨリ智識随テ
進ミ風俗随テ移ル制度文物ノ世道ヲ賛ケ人心ヲ整ル
モノ其日ニ進ム智識ト時ニ移ル風俗トニ相戾ラス政俗
並進シテ矢々差ナカラシム則チ國家ノ責ニ任スル急務ナリ
夫レ政治ノ緒アル其学ノ統アルニ由ル故ニ百官有司ノ職
各其学伎術藝ニ由ラサルナレ是以テ官ニ曠職ナク責ニ專
歸アリ今我皇國維新ノ運恰モ開化ノ機ニ投ス人智ノ
進ミ風俗ノ移ル力壓勢止ス可ラサルモノアリ然リ而シテ旧法
ヲ墨守シテ變ニ通スル能ワス偏見ヲ固執シテ宜ヲ制スル

金范堂

能ハスニハ政俗縣隔シテ相合セサル猶方底圓蓋ノ如シ如
此ニシテ國ノ衰弱ヲ救フント欲ト雖モ其レ得ヘケンヤ此レ大
ニ遣歐學生ノ奉ヲ興シ其國政治風俗人情ニ通達セシ
メ制度文物學術伎藝及其他百科ヲ研究セシメ日新
ノ民ヲ鼓舞シ開化ノ運ヲ贊助シ以テ國家ノ隆盛ヲ弼ケ
皇謨ノ遠被ニ至ルヲ期ス乃チ變ニ通シ宜ヲ制スルノ義
其奉ノ止ム可ラサル所以ナリ

遣歐學徒ヲ撰擧スル事

遣歐學徒ハ諸官省各局ニテ其事務ニ從テ修學ノ科
目ヲ立堪能ノ士員凡ソ百人ヲ詮撰スヘシ

又別ニ諸藩ニ課シテ才能アル者ヲ精撰シテ遣出スヘシ
諸藩ヨリ遣出スル學徒ハ其藩收得ノ歲入平均現穀
二万石ニ一人ノ割合ヲ以テ凡ソノ定負トスヘシ

但ニ萬石以下ノ藩々ニテモ遣出ヲ望マハ一人ツヲ出スヲ
得ヘシ

修學ノ科目ハ各國所長ノ別アルハ凡ソ別紙ニ掲クル所ニ
依テ豫定スヘシ

但学科ハ其学徒ノ資質ニ從フヘキモノニテ前定シ難ケレ
、豫メ各國ノ所長ニ就テ別紙ノ科目ニヨリテ實際ニ
處シテ随意其質ニ適スル科ニ就クヲ要スヘシ
学徒ノ年齢ハ十六歳ヨリ二十五歳ヲ以テ限ルヘシ然リト
云凡其者ノ器量ト學問トニヨリテハ限外ノ齡タルモ吟味
ノ後撰ニ入ルヲ得ヘシ

学徒ヲ撰奉スルニハ其官省ノ長官其事務ニ從テ審案
細議シテ修學セシムヘキ科目ヲ撰定シ而メ其科目ニヨリテ
充用ノ学徒ヲ撰奉スヘシ

但諸藩ニテ学徒ヲ撰奉スルモ同様タルヘシ

学徒ハ唯官員又ハ藩士等ニ限ルヘカラス諸校又ハ義塾
ニテ穎敏ノ生徒アラハ專ラ之ヲ奉用スヘシ

但才學ニヨリテハ艸莽ノ者モ撰ニ入ルヲ得ヘシ

撰ニ入ル学徒ハ勿論秀俊タルヘシト云凡又能ク事ニ堪ル
ノ者ヲ詮撰スルヲ要ス

学徒ハ稍國學支那學ニ通シ且遣出スル國々ノ語學又
學等聊習熟スル者ヲ撰ムヘシ

学徒ハ各官省又ハ藩々ニテ長官能ク学徒ノ才學ヲ試
ミテ撰定スヘシ

撰ニ入ル学徒ハ更ニ大學ニテ其學カラ檢シテ後遣出ノ

國々ヲ定ムヘシ

大学ニテ学徒ヲ檢スル時其才学ニ從テ第一第二第三ト生徒ノ等級ヲ定ムヘシ

学徒留学ノ年限ハ豫メ五年ヲ期トシテ其学ニ就シム尤モ学科ノ難易ニヨリテハ遲速期シカタキモノアレハ實際ニ處スル後期限ニ拘ハラス帰國又ハ留学スルコトアルヘシ

学徒ヲ統轄スルハ遣出ノ國々ニ從テ全權ノ任ヲ蒙リ指令スル者アルヘシト云凡是ヲ總裁スルハ大学ノ任タルヘシ

留學國々修學ノ科目ノ事

学徒ヲ遣ス國々ハ英吉利佛蘭西李漏生荷蘭米利堅ノ五國ト定メテ分派留學セシムヘシ

百人ノ学徒ヲ十分シテ二分半ツ、ヲ英佛李へ遣シ残り二分半ヲ蘭米へ遣スヘシ

学徒遣出ノ前外務省ヨリ五國公使へ書翰ヲ送致シテ留學セシムノ旨趣ヲ達シ諸事ヲ頼談スヘシ

学徒留學中公私書信ノ往復ハ外務省ニテ之ヲ掌リ沈滞ナク送致返與スヘシ

修學ノ科目ハ豫メ各國ノ所長ニ從テ其概略ヲ掲載シ

タレハ各其能ニ從テ之ヲ撰ムヘシ

英吉利

器械学

器用工作

商法

貿易

金銀為替

諸會社

地質金石学

諸鑛礦

動植物

製鐵法

製鐵場方法

器械運用

建築学

諸興作

造船学

船艦修繕方法

牧畜学

水草ノ適宜

六畜蕃殖ノ方法及性體ヲ變更スル術

濟貧恤窮

幼院
ノ區分

貧院

諸病院其他ノ諸院及公私

佛朗西

法律

税法

民法

刑律

詞訟法

交際学

萬國公法

利用厚生学

交通ノ道
紙幣ノ制度

生産ノ法
聚散ノ理
貨幣

動植学

國勢学

有形ノ物品ヲ表出シ政治ノ得喪ヲ監別スル方法

星学

天文推步

数学

格致学

化学

建築

獨乙

政治学

經濟学

格致学

星学

地質金石学

化学

動植学

醫科

藥製法

諸学校ノ法 諸科公私ノ塾

荷蘭

水利学 堤防橋梁 治河法

建築学

造船学

政治学

經濟学 國債法

濟貧恤窮

米利堅

郵傳法

工藝法

農學

牧畜學

商法

鑛山學

以上

右記載セシ科目ハ唯各國ノ所長ニ就テ其概略ヲ檢出
セシナレハ實際ニ處シテハ宜ク斟酌アルヘシ

科目中各國同種ノ學ヲ掲ケタルハ共ニ其所長タルヲ以テ

ナリ實際ニ處シテハ宜ク取捨アルヘシ

科目中海陸軍務ヲ掲ケサルハ物其前後スヘキノ理ヲ推テ
未タ其力ノ及ハサルヲ以テナリ學徒諸科修熟ノ後餘
力之ニ迄ルヲ期スヘシ

又別ニ雜科ヲ左ニ掲ケテ旁ヲ修學ノ資ニ供ス

政治ニ屬スル雜科

海關規則及取締ノ方法

市中取締ノ法

戶籍法

印紙法

田宅ノ賣買金銀諸物ノ貸借

市場ノ法諸物品ノ相場立

郡村ノ制置道路ノ法

議事院ノ事務

議負ノ職掌及撰奉ノ法

外國派出スル公使岡士ノ職掌及撰奉ノ法

任權ノ制限

設官分職ノ法

官祿ノ制

賞典ノ制

終身祿ヲ給與シ或ハ年季祿ヲ給與スル法

償金罰金法

徒刑場苦役場

囚獄ノ取扱

税法ニ屬スル雜科

地稅ヲ收ムル法

物品稅ヲ收ムル法

農工商稅ノ區別

直稅不直稅ノ別

國中收稅局分置ノ方法

商法ニ属スル雜科

管商ノ法

諸會社ヲ結フ手續會中ノ約束及政府ヨリ附与スル
權ノ制限

家名會 職業會 金主會

製作工藝ニ属スル雜科

諸工作場ノ法

汽車法 汽船 馬車法

電信法

紡織ノ法

陶器硝器磁器製法

製皮革細工法

染工

印刷法

製紙法

金銀銅箔ノ製法

ガルハニ製法

電気鍍ノ法

科外

日用雜品及飲食類ノ製法等

以上ノ雜科ハ事務上ニ就テ方今必用タルヘキモノヲ檢出
セシモノニテ或ハ本科ト混スルアレハ學ニ就ク者宜ク參考シ
テ修治スヘシ

生徒ノ俸給及ヒ學費ヲ辨給スル事

生徒ハ第一第二第三ヲ以テ其俸給ヲ分チ一等毎月五十
ドル二等四十ドル三等三十ドルト定ムヘシ

但生徒飲食衣服其他日用雜費トシテ一人ニ月
ドルヲ給与スヘシ

俸給支給ノ法ハ出立ノ節六ヶ月分ヲ附與シ尔後毎六ヶ
月分ヲ為替ニテ送与スヘシ

往返航海ノ費用及留學中ノ學費ハ都テ官費タルヘシ

但學費ハ生徒一人ニ付凡何程ト定額ヲ立テ支給ス故
ニ生徒モシ區分シテ入校シ又ハ教師ノ宅へ同居スル等
ノコアレハ割算シテ一人分ヲ其者ニ附スヘシ

生徒ハ其等級ニ從テ俸給ヲ与フル故本官アル者ト云ヒ留
學中ハ官祿ヲ支給セス

但家祿アラハ支給スヘシ且當人ノ願ニヨリテハ詮議ノ上
定額ノ俸給ヲ分チテ留守宅へ分与スルヲ得ヘシ

生徒ノ俸給及一切ノ學費ハ大藏省之ヲ總括計算
シテ英國東洋為替會社ノ為替ヲ以テ各國へ送與スヘシ

諸藩ヨリ遣出スル学徒ノ俸給及學費ハ每半歲其藩々ヨリ大藏省ニ納メテ送与スヘシ

各部ノ專任辨務使ヲ派出スル事

方今歐亞諸洲ニ於テ專ラニ行ハレ且大ニ政治ヲ資クル緊要ノ事務ヲ視聽シテ之ヲ記載シテ以テ内治ノ用ニ供スルタメ各部ノ專任辨務使ヲ五ヶ國へ派出スヘシ辨務使ハ其事務ニ從テ堪能ノ官負ヲ撰擧スヘシ

辨務本使ハ勅任官ニ限ルヘシ別ニ委任判任ノ内ニテ附屬ノ官員二人ツヲ撰ミ等級ヲ分チ書記官トシテ遣出スヘシ辨務使へハ其遣出スル國々ニ從テ其國語ヲ解スル通辨官

一人ヲ添フヘシ

又別ニ才能學術アル者ヲ撰ミテ附屬トシテ二三人ツヲ添フヘシ

但等級ハ其才能ニ從テ定ムヘシ

辨務本使及附屬ノ官負ハ唯才學アルノミナラス能ク事務擔當ノ才アリテ頗ル古今ノ事ニ達シ内外ノ法ヲモ通知スル者ヲ撰擧スヘシ

辨務使ノ本務ハ目今邦内ノ政態事務ニ就テ資用ニ供スヘキ切要ノ事件凡ソ前ニ掲ケタル各國所長ノ本科雜科ヲ熟視審聽シテ歸邦ノ後直ニ其事ニ處スルヲ以テ目的

トシテ修学スヘシ

辨務使ハ留學生徒ヲ統轄シテ各修学セシムルノヲ專
執司掌スヘシ

学徒ノ内モシ辨務使ノ指令及教師ノ学則ヲ奉セサルカ
又ハ勉強セサル等ノ者又ハ病氣等ニテ不得止ノ輩アラハ
專決歸國セシムルヲ得ヘシ

学徒ノ俸給及ヒ一切ノ学費ハ辨務使之ヲ裁制會計
濫用ナカラシムヘシ

辨務使ハ留学ノ年限ヲ定メス修学ノ次第ニヨリテ歸國
スルヲ得ヘシ

学徒留学中ノ規則ハ辨務使之ヲ審案シテ便宜其則ヲ
立ヘシ

辨務使ハ事務ノ模様ニヨリ派出スル國ノミニ限ラス便宜
他ノ國々ヲ巡廻スルヲ得ヘシ

但モシ巡廻スルニ於テハ一國ニテ視聽スル科目稍了得シテ
帰航ノ時又ハ別ニ間暇アル時ヲ計リテ其事ニ處スヘシ

辨務使歸國ノ時ハ学徒中ニテ一二人ヲ撰ミ諸事統轄
ノ代任ヲ命スヘシ

辨務使及ヒ附属士官共滞欧中ハ定額ノ官祿及ヒ旅
費ヲ支給スヘシ

但往返船賃休泊共官費タルヘシ

皇族華族ヲ留学セシムル事

皇族ノ苗学ハ都テ学費ヲ官給スヘシト云レ苗学中修学ノ科目順序及ヒ衣服飲食其他諸般ノ事ニ至ルマテ貴戚ヲ以テ他ノ学徒ト其等ノ大差異アルヲ得ヘカラス但苗学中諸般ノ事務ハ辨務使ニ諮詢スヘシ願請ニヨリテ二三人ノ士負ヲ附属スルアルヘシト云レ唯起居左右ニ侍スル尋常ノ隸侍ト同フスヘカラス共ニ修学スル学徒トシテ附属スヘシ

華族ノ者苗学ヲ望マハ都テ自費タラハ遣出スルヲ得ヘシ

但其者ノ篤志ナルカ又ハ才学アリテ家禄ノ少ク学費ノ給シカタキハ詮議ノ上別段ノ處置アルベシ

五年又ハ三年ヲ期シテ修学ヲ欲スルハ他ノ学徒ト共ニ其科ニ就クヘシ唯視聴見聞ヲ廣クセント欲セハ辨務使ト共ニ帰國スルヲ得ヘシ

各藩ノ知事タリト云レ其藩務ニ代任ノ者アリテ願請スルニ於テハ苗学スルヲ得ヘシ

但学費諸般ノ事ハ家禄ヨリ供給スヘシ

商賈農桑ノ者タルモ自費苗学ヲ望マハ都テ便宜遣出スルヲ得ヘシ

自費ヲ以テ留学ヲ願フ者ト云凡其者ノ望ミニヨリテハ他ノ
学徒ト同シク學ニ就カシムヲ得ヘシ

但學費ハ凡積ノ割合ヲ以テコレヲ支消スヘシモシ又他ノ
学徒ト同居スル時ハ飲食其他日用ノ諸品凡積ノ計
算ヲ以テ同様支消スルヲ得ヘシ

自費留学ノ者ト云凡留学中諸般ノ事ヲ兼辨シ且往
復書信ヲ送致スル等都テ他ノ学徒同様ノ取扱タルヘシ

新ニ太政廳ヲ建造シテ諸官省ヲ合併スヘキ議

夫レ官ヲ設ケ職ヲ分ツハ政府其國家ヲ修治スルノ機軸ニシテ
賢ニ任シ能ヲ使ヒ各所長ヲ尽サシムヘキハ固ヨリ言ヲ俟スト云凡
其位置處分ノ當否ヨリ凡百政治ノ隆替興廢ニ關涉ス
故ニ政府其開創ノ時ニ臨テ廣ク古今ニ攻索シ研究考覈シテ
確然不拔ノ制ヲ設立セシハアル可ラサルナリ蓋シ國家ノ官職アル
猶人身ノ四支アルカ如シ四支其位置ヲ宜フシテ而シテ全人タルヲ得
官職其處分ヲ得テ以テ全國タルヲ得ル今人身若シ其四支ノ
位置ヲ宜フセサレハ乃チ不具ノ人ニシテ能ク其身體ヲ保護スル
能ハス國家若シ官職ノ處分ヲ誤ラハ乃チ不典ノ國ニシテ又能ク

其人民ヲ修治スルヲ行ス然リ而シテ官職ノ處分其當ヲ得ルノ
道其國体政憲ニ從テ少シク異同アリト雖正要スルニ首尾相通
シ脈絡相貫キ制置法ニ稱フテ偏重ノ患ナク節度規ニ從テ
阻隔ノ弊ナカラムルニアリ是故ニ百官其事務ヲ督勵シテ
自他障碍スルヲナク本体確立シテ細用隨テ奉リ各相連綴
接續シテ以テ大綱ノ統理ニ歸ス猶四支ノ行走提携シテ其
心身ノ用ニ供スル如シ今夫レ若シ手其持セント欲スル者ヲ取テ其
心ニ服事セス足其行ント欲スル所ニ赴テ其心ニ適從セスハ人
豈得テ其心身ヲ調護スルヲ得可シヤ維新ノ際幸ニ從前ノ
陋習ヲ排除セラレ閱閲ヲ廢シ賢才ヲ擢ンテ新タニ三職ヲ置

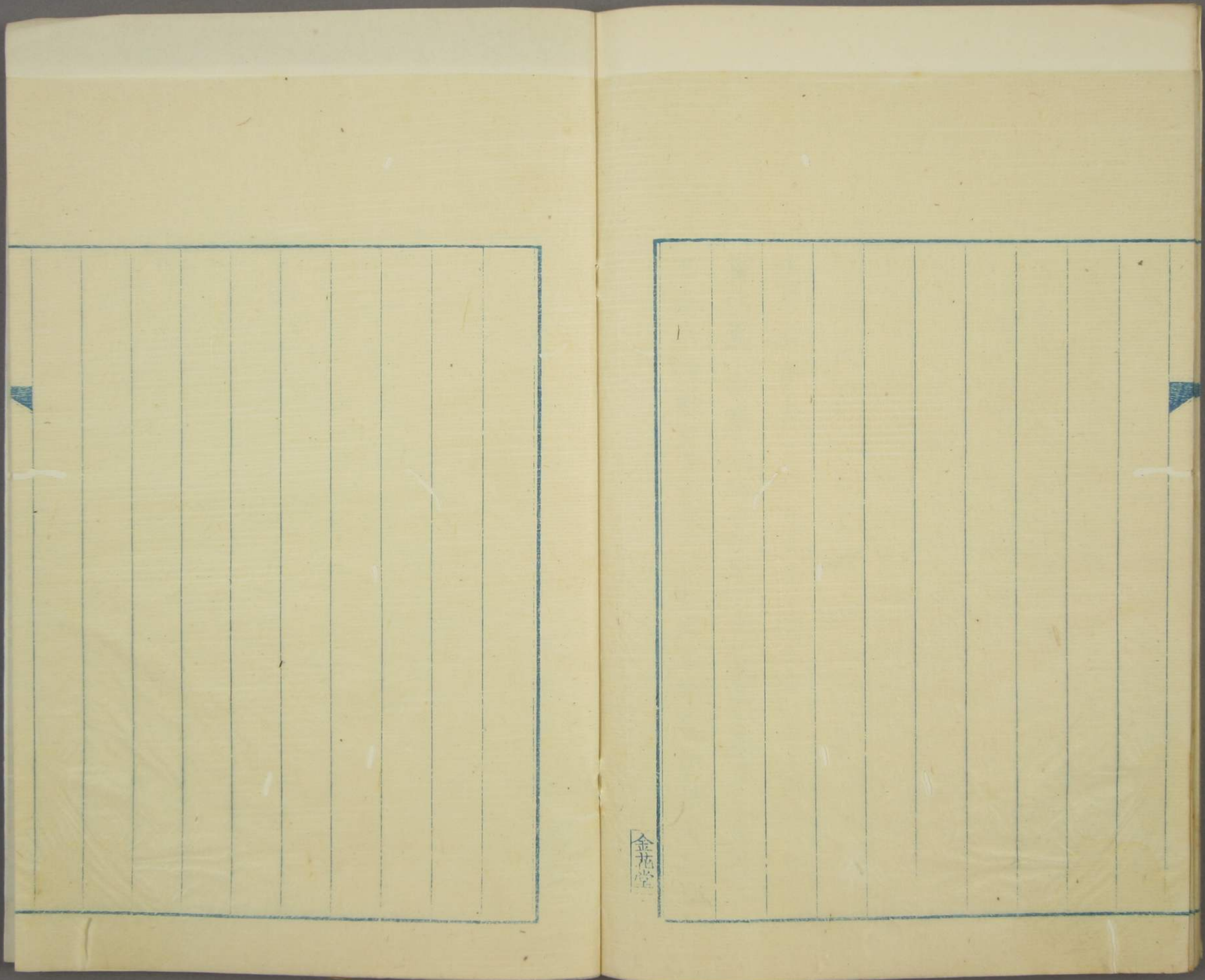
キ八局ヲ設ケ各相事務ヲ分課シテ内外凡百ノ庶政ヲ總理ス
然リ是レ兵馬ノ間倉卒ノ開創ニシテ制度未タ其當ヲ得タリ
ト云可ラス故ニ戊辰ノ夏其制ヲ改メ太政官ヲ分ツテ七官トシ
議政官ノ上下局ヲ設テ立法ノ事ヲ掌リ行政官ヲ置テ庶
政ヲ執行シ其他神祇會計軍務外國刑法諸官皆各
其掌管ノ事務ヲ分課シ更ニ各府藩縣ヲシテ承テ之ヲ地
方ニ施サシメ官九等ニ分ツテ其職任ノ制限ヲ定メ公論ヲ會
議ニ取リ智識ヲ世界ニ求メテ以テ國權ヲ確立シ
皇基ヲ振興セントス其制度規律粲然觀ルヘキニ似タリ然リ
猶未タ綏穩ナラストシテ去秋更ニ又其制ヲ变革シ遠ク大寶

ノ古典ニ法トリ斟酌折衷以テ今日ノ政体ヲ改定セリ尔来茲
ニ一年猶未タ其成績ヲ見ルニ至ラス紀綱却テ統理セス度政
却テ振興セス官省或ハ其制度ヲ殊ニシ府縣各其規律ヲ
同フセス或ハ切ニ新規ヲ創立シテ之ヲ制スルヲ得ス或ハ徒ニ旧
制ニ因依シテ之ヲ督スル能ハス甚キハ其掌管スル一局一廳ヲ
以テ各一區ノ政体ヲ調護セントスルニ至ル於是乎氣脉阻梗
政令紛更人其方向ヲ一セス侏儻雜冗遂ニ統一幹理ノ術
ナキニ至ラントス是レ豈其設分ノ適宜ヲ得ルト云可シヤ夫レ方
今ノ政体太政官諸官省ノ上ニ位シテ庶政ヲ總判スト雖モ
官省其他ノ諸局ニ於ケルモ又各長官アリテ其事務ヲ管

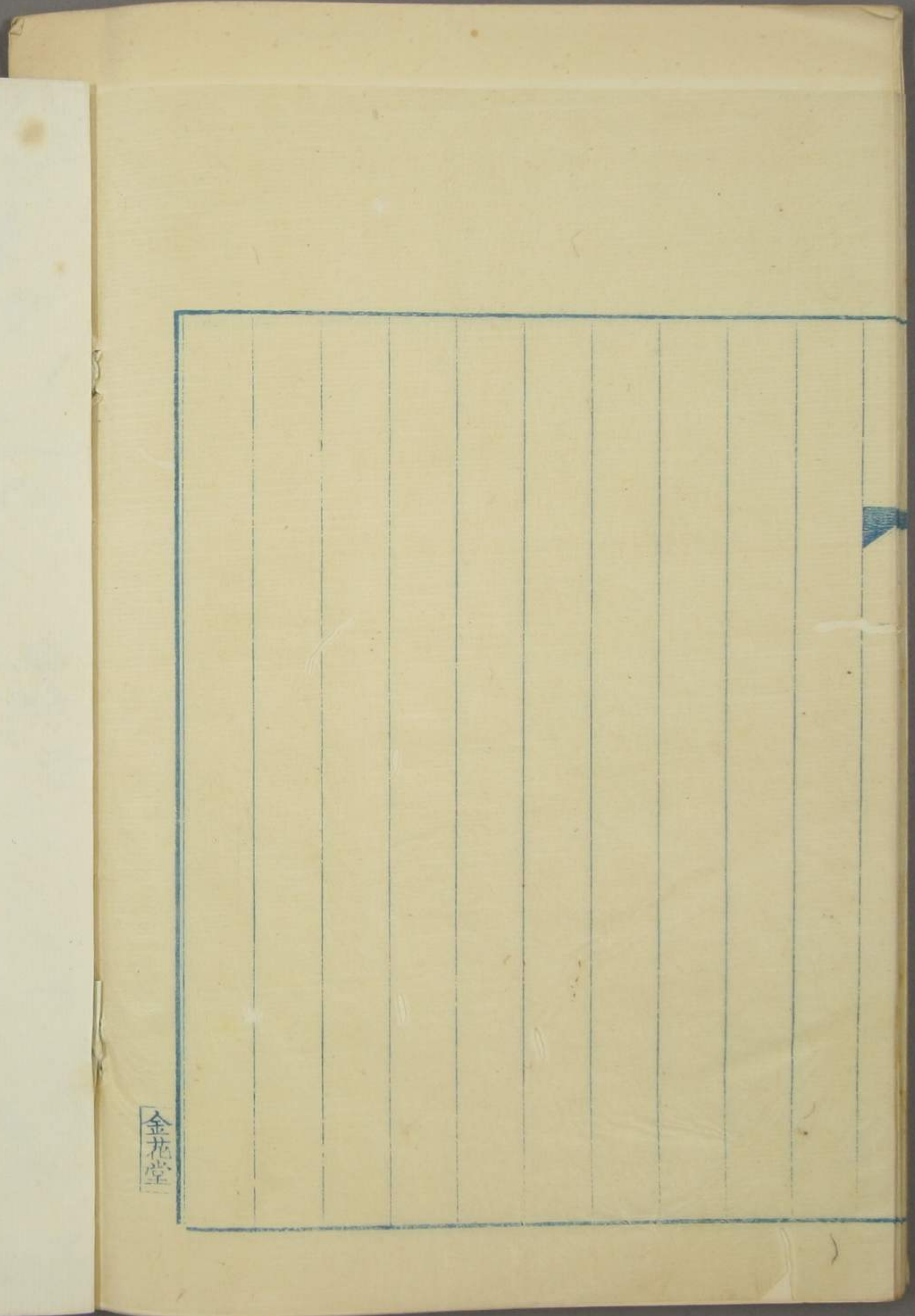
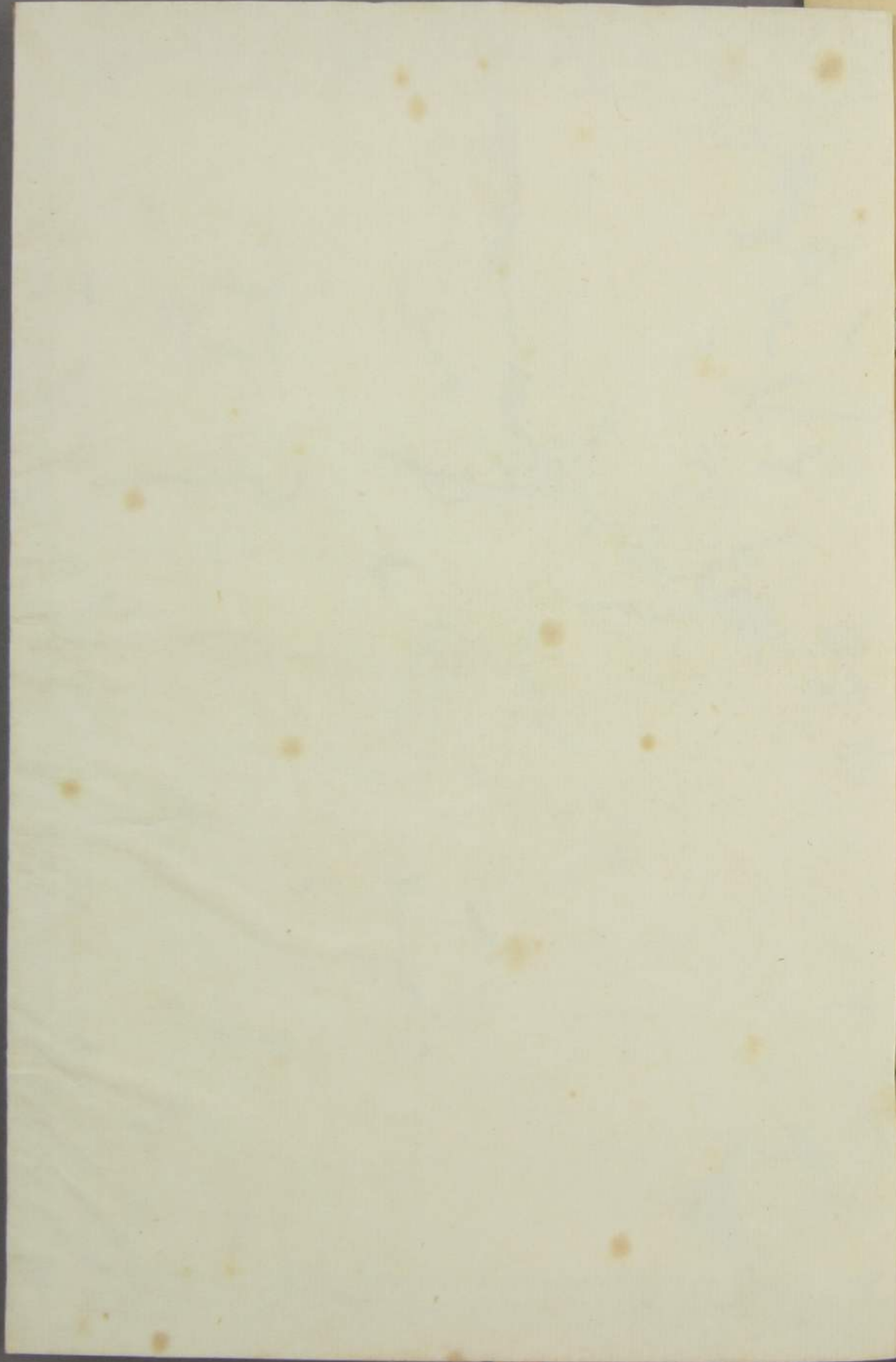
理セシム既ニ之ヲ分置シテ又各其事務ヲ附課ス隨テ之ヲ制
限ヲ定メテ以テ章程ヲ立スハ勢紛雜誓延ノ弊ナキヲ能ハス
然リ而シテ今日渙号ノ際日新ノ運ニ會ス凡百ノ事物徒ニ
古典旧格ヲ以テ之ヲ處分スル能ハス是故ニ處事日ニ其旨ヲ
異ニセサルヲ得ス接物月ニ其制ヲ更メサルヲ得ス若シ能ク章程
ヲ明ニシテ之ニ事務ヲ委任スルニ其處置舉措ノ際ニ於テ終ニ
太政官ノ權カヲ分離シテ政柄多岐ニ出ルノ患ナキ能ハス又
或ハ之ヲ上操シテ假スニ決裁ノ權ヲ以テセサレハ百事交互錯亂
シテ沈滯誓失ノ弊ヲ免カス夫レ然ラハ之ニ任スルト任セサルト
均シク其弊害ナキヲ能ハス是レ也ナシ其分置ノ制宜キヲ得サレ

ナリ曰ク然ラハ如何シテ可ナラシヤ是レ宜ク新タニ太政廳ヲ建造シテ
諸官省其他各局ニ至ル迄總テ之ヲ合併シ其事務ヲ分附シテ
之ヲ處置セシメ更ニ衆議公論シテ無用ノ官不急ノ職ヲ減却
シ各相調合和同シテ主課ヲ調理セシメ而シテ太政官之カ
首領ニ位シテ萬機ヲ總裁統轄ス夫レ然ラハ庶政親シク審判
スルヲ得百事立ロニ辨理スルヲ得ク國是定マリ方向明カニ政權
一ニ歸シ威柄共ニ合シ之ヲ其職ニ任シテ分歧ノ患ナク之ヲ上裁ニ
決シテ紛雜ノ弊ナシ下問文書ノ繁ヲ省キ上達申課ノ勞ヲ
減ス如此シテ始テ國体ノ確立庶政ノ振興ヲ期スヘキナリ依テ
其弊害ノ由縁ト極救回護ノ方略トヲ詳論細議シテ上聞ス

ル一如此御採用アルニ於テハ速ニ太政廳建造ノ規畫諸官
省布置ノ体裁及ヒ經費辯給ノ目途等更ニ之ヲ審議シテ
上覽ニ供セントス



金花堂



金花堂

